

平成 29 年度 (家庭科) 授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的な指導計画
1 年	説明方法（話し方）の工夫。 指示の工夫。 努力・改善の必要がある。	ポイントを明確にゆっくりと話をしよう心がける。 2 学期から、作業実習に入るため、指示の工夫として、黒板だけではなく、布見本の指示やモニターなどを利用し、視覚で作業手順を確認できるようにする。	振り返りシートで、自己評価（作業の取り組み・作業の理解度）を生徒自身にも確認させていく。 作業が遅れ気味生徒へは、放課後の時間を使った補充教室を実施し、次の時間には他の生徒と同じ所からのスタートになるようにしていく。
2 年	説明方法（話し方）の工夫。 指示の工夫。 板書の工夫。 努力・改善の必要がある。	ポイントを明確にゆっくりと話をしよう心がける。 本格的に調理実習に入る。モニターを利用し、視覚で作業手順を確認できるようにする。 板書は、板書計画を立て、意識して取り組んでいく。	実習中の声かけをし、実習での自分の役割ができるように援助する。
3 年	説明方法（話し方）の工夫。 指示の徹底。 1) 授業の内容 2) 次の授業の指示 3) 評価規準 努力・改善の必要がある。	ポイントを明確にゆっくりと話をしよう心がける。 修学旅行、周年行事と準備のため、授業時数が少ない。12月までの計画をしっかりと立て見通しを立てる。また、本時の授業の内容の確認を伝えていく。 モニターの活用を行い、視覚に訴えわかりやすい授業にしていきたい。	プリントとワークの活用。 12月までの授業計画を事前に発表し授業の見通しをもたせる。